

【参考資料4】

**令和元年台風19号
避難所開設時の状況・課題報告
(避難所: 神山小学校校舎)**

令和元年11月14日(月)

御殿場市役所

危機管理課

① 避難者カードの整備

避難所を開設後に避難者の世帯・人数の電話確認が支部から複数回ありましたが、避難者カードや受付簿が未整備のため、避難してきた方の氏名・住所等が把握出来ない状態だった。危機管理課の方でテンプレートを用意してほしい。(⇒『避難所運営マニュアル』(様式集参照))

② ペット同伴での避難

犬(3件)や猫(1件)を同行して避難したいとの要望がありました。

<猫を同伴された方>

- ・猫を連れられた避難者は、ご家族の1人が猫と一緒に車で過ごし、その他の方は避難所で過ごされた。
- ・台風通過後に帰宅された。

<犬を同伴された方>

- ・最初に犬を同伴して避難所へ来られた避難者には、昇降口で過ごしていただいたが、犬を連れられた避難者には、校長先生と協議し工作室を開放いただいた。
- ・しかし、2番目に避難所へ来られた避難者の犬と1番に避難した犬との相性が悪く、工作室で過ごすことが出来なかった。そのため、1番目に避難した犬の避難者は、昇降口近くの階段近くのスペースで過ごされることになった。
- ・3番目に避難所に来られた避難者の犬と2番目に避難の犬の相性は問題なかったため、工作室で過ごされた。
- ・いずれの避難者も台風が通過後に帰宅された。使用した工作室は犬の体臭や尿の匂いが充満していた。ペットシートを使用していたため、工作室の汚損はないと思われる。

<課題と感じたこと>

- ・ペットの多様化に伴い、どこまで受け入れたら良いか。
- ・避難所へ同伴する際のルール(ケージの持ち込み・移動用のカゴに入れる・餌・水・糞尿の処理)の整備
- ・台風による避難の際や真夏や真冬の屋外にペットの避難スペースを配置することは不可能。また、避難者からはペットを家族として扱うことを求められるので、屋外で管理するのは難しい。

② 当初想定した避難所が使用できない場合の対応

神山小学校の体育館が河川の近くにあることから使用できず、校舎を避難場所として対応した。授業への復帰のため生徒の教室が使用できず、避難者は避難スペースまで校舎内を相当な距離を移動する必要があった。なかには歩行が不自由な避難者もあり、多目的トイレまでの距離も相当あった。

避難場所の見取り図などもないため、最初はトイレの場所についても把握できておらず、どの避難スペースにどれだけの避難者がいるのか把握しにくかった。(⇒各避難所での配置図の作成)

④ 日本語が通じない避難者への対応

どのようにして情報を得たか、どこの住民か不明だが、中国人と思われる避難者(1名)が単独で避難された。避難スペースに案内したが、日本語があまりわからないと片言で話されていた。

⑤ 避難スペースの温度管理について

避難スペースが教室の一部であったため、人数が多くなると蒸し暑い状態となった。台風が接近していたため窓を開けることを出来ず、学校の備品の大型扇風機を使用させていただいたが、あまり改善できなかった。停電になっていたら、避難者の体調に影響が出た可能性があると感じた。

⑥ 避難所の開設の備品について

避難所で本部や入口にがわかるように張り紙をしたかったため、油性ペンやコピー用紙が必要だったが、支部から運んでもらうまでは何もない状態で、神山小学校の備品を借用した場面もあった。選挙事務で使用するような事務備品がある方が良いと感じた。(⇒ 避難所運営初動セット)

地震等であれば問題がないが、今回のように台風のような水害だった場合は、案内などの紙が早期に劣化する可能性があり、避難者が家族などを待ったり、安否確認をするための情報共有ボードなどにも活用するため、簡易的なホワイトボードのようなものがあったらいいと感じた。

また、避難スペース間の距離があったため、食料品等の運搬に時間を要した。避難期間の長期化・避難者数の増加による食料品等物資の増加があった場合、より人手や時間を要する可能性があるため、備品として台車があると効率化が見込めると感じた。

⑦ 避難所として使用した施設の返却方法

台風の避難であったため、避難者は合羽等を着て避難しており、雨や泥で避難所の床は汚れていた。また、飲食をしたり毛布を使用しているため、避難スペースにもある程度の汚れがあったと思われる。避難所を閉所する際に、清掃したうえで返却するべきだと思うが、今回は神山小学校の好意により学校側で清掃していただけることになった。避難が長期化することも考えられるため、施設の返却の際の対応について、統一していただきたい。(⇒ 最終的な責任は支所等)

⑧ 避難所派遣職員同士で連絡先がわかるものを切実に用意してほしい(連絡網など)

当日、無線などの整備もなく、人が散り散りに行動する上で、咄嗟(とっさ)にLINEグループなどで対応できたが、電話番号等知っておきたいと思う。(⇒ 地域防災無線(半固定)あり)

⑨ 避難所での行動が現場頼りであった

実際に災害が起こった時は、規模に応じて対応が変わることは重々承知しているが、研修等でゲームとして受け入れの訓練を行う以外に特に知識がなく、適当に行動できていたとは思えない。

避難所開設にあたって基礎的なマニュアルになるようなものが欲しいと感じた。(⇒ 配布済み)

今回の場合は、支所では、小学校で校長先生の指示に従うように指示を受けたが、校長先生も寝耳に水であったようで、結果的に独自で判断し、行動する結果となった。

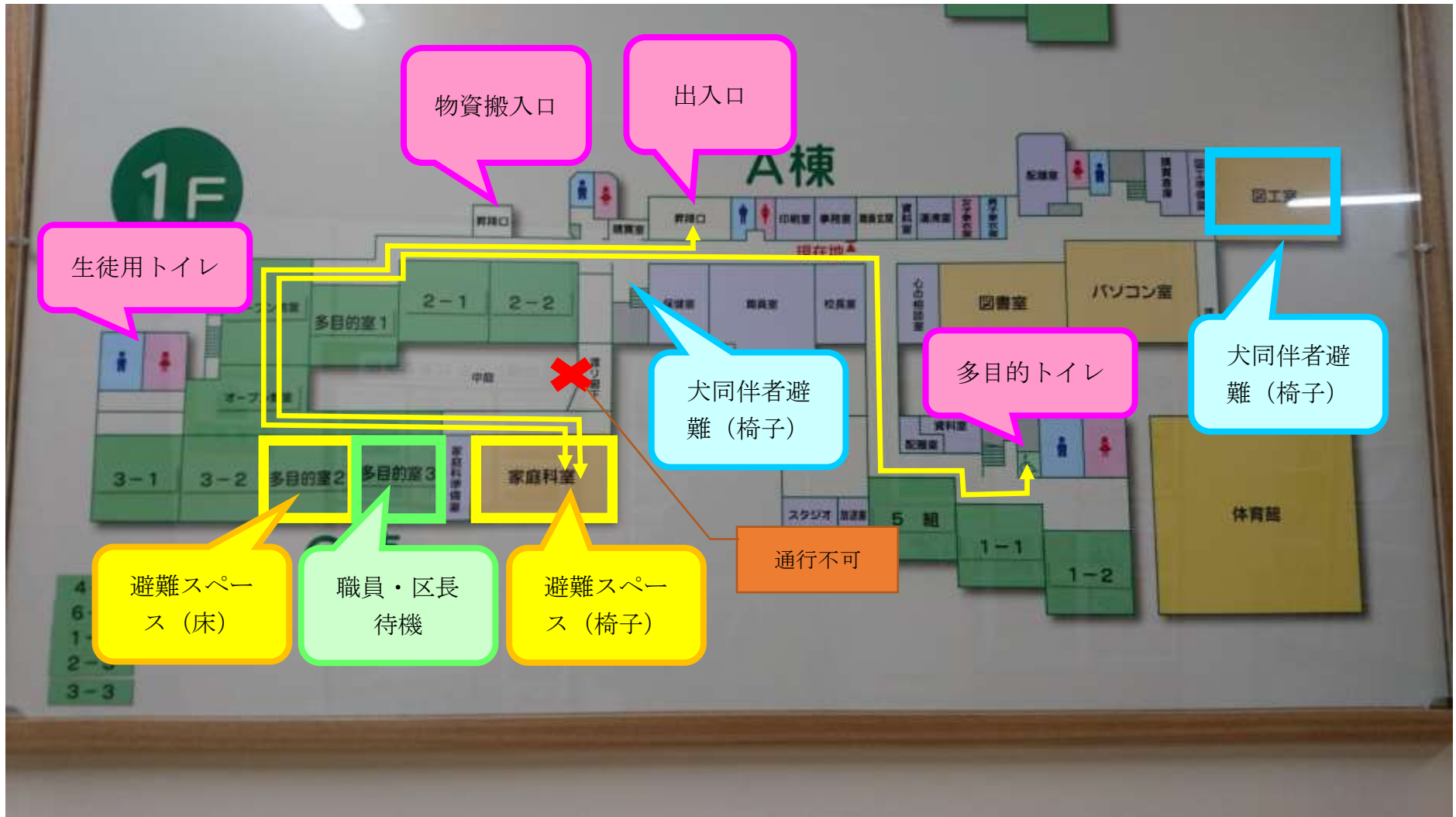
(⇒ 市役所(支部)・自主防災会・学校が三位一体となって避難所を開設・運営する?、だれがリーダーシップを発揮するのか?、結果として校長先生に負担が掛かってしまった。)

⑩ 避難者からの協力申し出について

一部の避難者から「手伝えることがあれば言ってください。」との申し出があったが、⑨のとおり現場では避難者へ行くべき対応の全体が見えなかったため、特に何かを依頼することはなかった。長期化する際には配膳等避難所運営について手伝っていただくべきだと感じるが、どのよう

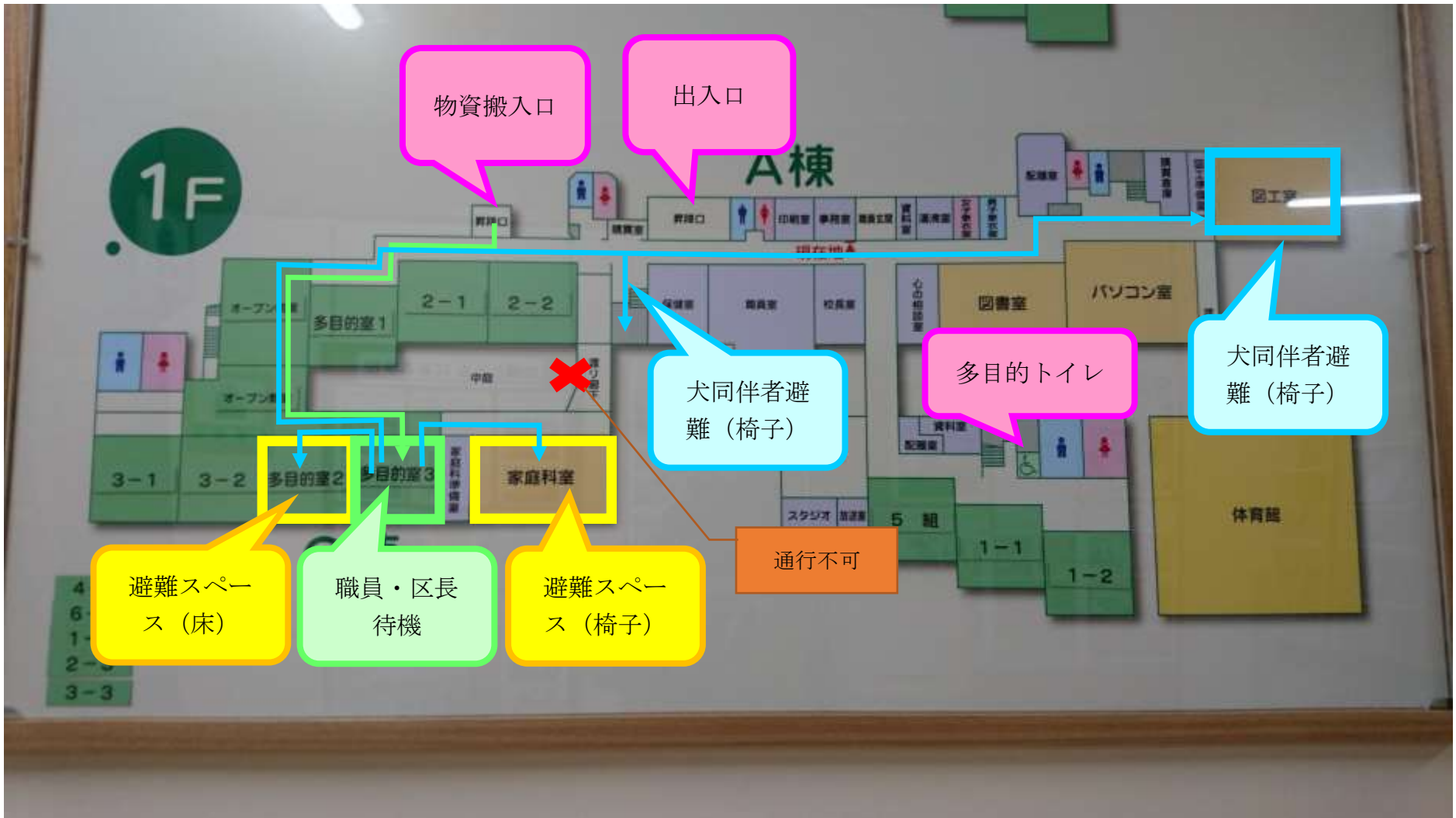
なタイミングで不公平の無いように協力を募るか、課題だと感じた。(⇒事前訓練の必要性)

○避難者誘導・割り当て



→ 避難者の経路 (出入口…避難スペース…多目的トイレ)

○物資運搬経路



➡ 物資搬入経路 (物資搬入口…職員待機スペースへ)

➡ 物資配分経路 (職員待機スペース…避難スペース)